

【ものづくり 人づくり 地域づくり】 2012 年秋の生協強化月間

災禍をくぐり いのちのきずな 今は岐路



6 月あいコープ福島の本代会にて
福島で元気に生まれた赤ちゃんを抱く
高橋徳治商店の高橋社長も（右）

故郷を追われ、故郷に残り、平穏だった地域コミュニティを破壊され、ばらばらにされ、放射能の不安におののく福島の人々の苦難と生活再建、地域再生への思いと努力は私たちを問う。脱原発、そしてもういいかげんに脱成長。いのちを大切にする新しい社会をつくるのは共にあろうとする私たちの協同。「自立と社会協同」に向けて 2012 年秋。生協の強化月間は、8/24-25 福島の子どもの家族との交流からスタートします！

今、わたしたちは少し平穏を取り戻したものの、子どもらの不安は消えない。福島の子どもの家族はよけいになにゆえこんなことになったのか。

福島のそこに生協があって、生協の仲間がいて、食の安全を第一に必死で努力する生産者がいて、共に支えられて、ここで子どもを産む勇気を得て。避難して別れた組合員家族も同じ仲間だ。

少し離れてホットスポットとなった私たちの地域。この時代に生まれ、この災禍をくぐり抜けて共に生きていこうね。綿繰りの手に、無事に元気に生まれてきてね、と想いをめぐらせ像を結ぶ。スヤスヤ眠れるようにと、綿のお布団を贈った子らがバスで遊びに来る。いとおいしい。

福島の子どもの家族たちは経産省前にデモをする。そして官邸前抗議デモも続く。そして私たちも東海第2原発差止提訴、東電告訴で続く。今はいのちの岐路。子どもらを必死で守ろうとする親たちこそ、本当の次の時代を用意できる資格があると思う。（大石）



昨年 10 月の綿布団の贈呈式（郡山）
この時はまだ二人目はお腹の中（右）



綿くり交流（10 月郡山）

【秋の生協強化月間】理事・総代さんが中心になって、「地区別組合員懇談会」を開催します。テーマは

1. 放射能に負けない家族の健康づくり
子どもたちには何を食べさせたいの？ 被ばくで「老化」が早まると言われるけど本当？
放射能に負けない秋の月間の強化商品、旬の商品の紹介と試食会（商品部）
2. ホットスポットエリアにおける被ばくと汚染の調査報告
3. 組合員どうしの自由なおはなし会（わたしのおすすめ品、原発とわたしたち、生産者のことなど）

テーマ別「チーム活動」も、すすんでます！ ぜひ参加を！

○「綿で福島の間とつながる」

8/24～25、あいコープ福島の親子がつくばに保養を兼ねて綿畑の見学交流。実行委員みんなで歓迎ディナーショー開催。

○「脱原発くらし見直し委員会」

新しい体制で始動！ チーム別活動もスタート（①チェルノブイリ健康影響翻訳、②くらしに憲法を生かそう、③子どもと健康）。ニュースも自主制作で配布中！ 毎月委員会開催です。参加歓迎！ 今度は9/1（土）です。

○「お料理ポケット」

土浦で先行するポケット。見学しながら各地区にひろげましょう。

○「北海道ミニ避難」実行委員会

8/1～4に子ども7人、大人2人、職員で土別農園にお世話になりました。放射能を心配しなくても大丈夫で思い切り遊んできました。報告会を8/27予定。

○「平和の集い」実行委員会

第1回の集まりを開催。もういちど地元の戦禍について調べ、学ぶことから確認。

○「生協まつりお手伝いチーム」

今年の生協まつりは11/3（土・祝）です。もうすぐ実行委員会募集がはじまります。

○「オリジナル醤油かきませ隊」

夏はプツプツ音を立てて発酵が進んでいます。つくば市の沼屋本店の桶を訪ねて私たちのお醤油づくりに手入れに行きます。もうすぐ募集。

○「麦踏みしたいチーム」

幼稚園・保育園児を中心につくば市の契約麦畑に麦踏みに行くのは来年1月。その前に、昨年麦踏みして収穫した麦の小麦を使ってパン作りを計画しています。

何でもお手伝いチーム

「時間が空いてれば何でも手伝います」という方、集まって！ ちょっと人手が欲しい、の作業を一緒に。

お醤油かきませチーム

みんなで交代しながら、常総オリジナル醤油の桶入れをして、二夏熟成で絞りまで。「おいしくなれ」

お料理ポケット

「お料理大好き集まろう！」料理のアイデア楽しく持ち寄り、商品案内にも登場。すでに土浦地区でスタート。あなたの地区でも始めませんか！

めぐみちゃんのお米で糖づくりチーム

田植えから初めて、秋に稲刈り。出来たお米で糖を作ってみよう！

わたくるみんなで交流「くるみ」ちゃん誕生+綿畑

去年、福島の子ども達に和綿布団を贈った常総生協。そして誕生した「くるみ」ちゃん。今年はフクシマからワタ畑訪問の予定は8月下旬です。皆さんと一緒に。

脱原発くらし見直し委員会

「原発なくそう」の思いで43名が活動中。2012年は原発問題だけでなく、くらし見直し活動や環境調査の活動にも踏みだします。ぜひ一緒に。

生命つなぐ母の交流 東海村、那珂市のお母さん達とつながりましょう

東海第2原発のお隣で、「原発はいらない」と声をあげているお母さんたちとの交流。第一回目が5/9開催されました。

総代 基幹運営チーム

組合員意見・要望を集めて実現します。

北海道の夏休み計画「ミニ避難」運営

子ども達、夏休みには放射能を忘れて、思いっきり遊んでもらおうと土別農園が常総生協の子ども達を受け入れ。職員といっしょに現地への付き添いとお世話を。

生協祭りお手伝いチーム

11月の生協祭りの準備・運営のお手伝い。お祭り当日は、生産者と気持ち合わせて。

「平和の集い」運営お手伝い

昨年のテレジンの子ども達の絵画展につづき、チェルノブイリの絵画や写真展示、映画の上映などを計画中。みんなでアイデア出し合って盛り上げましょう。

麦踏みしたいチーム

秋には種をまき、冬には麦畑で地域の幼稚園児と麦踏み、収穫した小麦を粉にしてパン作り。

○「いのちつなぐ女たちの交流」

東京電力の刑事責任を問うために福島の母親たちが立ち上がり、東電を「告訴」しました。経産省前にテントを張って抗議を続ける武藤さんら福島からの呼びかけに応じて交流を計画しています。

下記記録映画も上映予定です。



【中期計画の修正】

食も環境も、地域も、将来も 核と放射能のリスクを前提にしか考えられなくなったこと

常総生協「第3期」（2011～2030年）の「自立と協同」をつくるスタートに！

（中期計画の中の2012年秋の生協強化月間として）

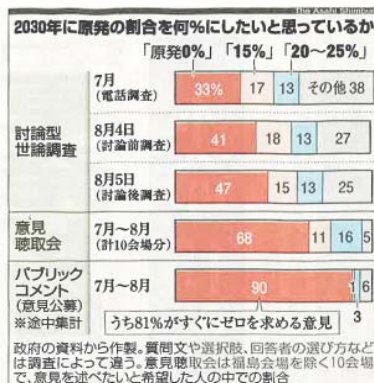
	【組合員】	【生産者】	【職員】
	正味 5,000 家族	約 150 生産者・会社	37 名
状況	2011 年福島原発事故による放射能汚染によって、「食と環境、健康で経済的暮らし」という生協の事業課題の基礎ががらりと変わらざるを得なくなりました。協同組合としての課題を大きく修正せざるを得ません。 福島事故による汚染と被ばく、コミュニティの破壊は終わっていない。格差の上に立ち自然と人間の営み・つながりを破壊する原発は、「自立と協同」の対極にある。しかし、不幸中の幸いが重なってこの程度で済んだとも考えられます。ちょっと間違えれば、今ここに住んでいられなかったかもしれない。 今わたしたちがこの社会の在り方を変えられなければ、福島は「悪夢のはじまり」になるかもしれない。		
消費と生産～ 健康で経済的暮らし	・ 20～21 世紀「核の時代」に生きる宿命と改革→放射能に負けない身体づくりと、安心と平和な社会づくりをすすめましょう。 ・ 伝統の食文化「日本型食生活」の継承と共有	・ 食が生み出される大地と海の汚染との長期の対策。 ・ いのち育める食をつくる考え方とプロとしての実践チャレンジ ・ 食べてくれる消費者組合員のところに出て交流する機会を増やす	・ 「食と環境と人のつながり」がいのちの基礎にあることの共通認識を深め、食卓と生産現場をつなぐ、組合員と生産者をつなぎ、実体として支え合う「利用」の関係を築く仕事を！
仲間づくり	・ 福島・東北の人々と共にあることを忘れないようにしましょう。 ・ 地域コミュニティ、地域自治、地域自給再生の核になりましょう！ ・ 私たちの協同の発想や経験を地域や社会に発信する活動をすすめましょう！	・ 生産地域における生命の基礎産業（農林水産）再生の中核として共に頑張りましょう。 ・ 生産と消費のあり方のモデル～モノの売り買いでなく、自立と協同のあり方の実践として。	・ 同じ地域の組合員どうしをつなげる仕事。 ・ 組合員と生産者をつなげる仕事。 ・ そして、地域の人たちに協同組合の活動を知らせていっしょの仲間になってもらう牽引力になろう！
共有と教育	・ 食を共にする協同性・親しみと共通の仲間としての信頼感があります。 ・ 情報共有（広報）から行動の共有へ（参画と自立）。 ・ 協同組合の主役の中心は組合員です。 ・ 今年は「国際協同組合年」です。協同組合ってなに？	・ 放射能汚染によって生産と消費が分断されるという経験を経て、より高いレベルでの信頼と支えあいとの関係が必須。 ・ 自然の営み（旬やおいしい食べ方）を消費者に伝える役割がとても大切です。 ・ 1年に一度は組合員の前に来てくださいね！	・ 共に共通の目的・目標に向かうための共有能力とコミュニケーション能力の強化（人間力） ・ 目標への集中力の涵養 ・ 食と環境をつなぐ「プロ」としての職能の現場訓練（知と身体） ・ 成長プロセス自己計画、自己管理
構成員の構造変化と課題	・ 常総生協生まれてもうすぐ 40 年を迎えます。常総生協の食で育った第2世代の組合員も増えました。1970 年代創設期の組合員にはお孫さんが。 ・ 「3世代が同居する組合」で世代協同できる大きな可能性があります（知恵の共有や文化継承、つながり、支え合い、役割）。 ・ 時代の大きな変化としては「少子高齢化」。	・ 生協組合員と共につくってきた生産者世代から、次の世代（子どもさん、会社でも新しい世代）への交代が早いスピードで進行しています。 ・ 新しい世代の組合員、職員との交流が必須です。	・ 組合事業継続継承の要は 30 代の第3世代（～2030 年）職員リーダー育成がカギとなります。 ・ 世代交代期の「生みの苦しみ」の時期です。 ・ 新人職員は新しい組合員世代の中で育つ経験をしています。 ・ 先輩に学びつつ、同年代組合員・同世代生産者と「共に作り上げる」経験を積んでゆこう！

国民が決める国の選択肢ーパブリックコメント 90%が「原発 0%」

大飯再稼働をめぐる首相ら4閣僚への抗議のハガキもたくさんの組合員が送ってくれましたが、7月末に呼びかけました国のエネルギー政策へのパブリックコメントにも多くの組合員がインターネットやfaxで意見を出してくれたようで、生協への問い合わせもありました。

政府はパブリックコメントは意識ある人が意見を寄せるため「偏りがある」と言い張ろうとしていました。さらに討論型世論調査は無作為で選ぶのできつと政府提案の「15%」支持になると侮っていましたが、討論型世論調査でも討論を重ねるにつれ「原発0%」が増えて行く結果となりました。

さらに声をあげて、原発ゼロ、廃炉の実現まで頑張りましょう。



野田政権が新しいエネルギー政策を決めるための「国民的議論」としてきた討論型世論調査などの結果が22日、出そろった。2030年の電力に占める原発割合について、すべての調査で原発ゼロの支持が最も多く、「多数意見」として政策決定に大きく影響しそうだ。

▼2面Ⅱ「原発ゼロ」誤算の政権、3面Ⅱ官邸へ抗議「続ける」、6面Ⅱ安全重視、鮮明に

「国民的議論」結果出そう
政権は30年の原発割合について「0%」「15%」「20~25%」という3つの選択肢をつくり、国民の声を

「原発0%」支持最多

討論型世論調査 聴取会 パブリックコメント

「原発ゼロ」誤算の政権
本命「15%」支持伸びず

【催しものご案内】 がんに打ち克つ栄養と健康 星野 & 田中講演会

つくば代替・統合医療を考える実行委員会による講演会が開催されます。

ゲルソン療法を実践されているみなさんが中心になって頑張っています。

食事を変えることによって、自身の身体を自然治癒力を高め、がんを自然退縮させ、再発を予防する食事法を学べます。

塩や白砂糖を制限し、動物性たんぱく質と油脂類の抑制、有機野菜のジュース、穀類の摂取など、普段の私たちの食生活でも役に立つお話しが聞けます。

生協ではゲルソン療法の会のみなさんとは人参の共同購入で提携協力させてもらっています。
参加申込は、tel/fax 029-867-0800、080-8560-6392 e-mail yyazawa@ce.mbn.or.jp 組合員の矢澤さんまで

「がんに打ち克つ栄養と健康」
星野仁彦・田中康雄講演会
ー星野式ゲルソン療法と食養生クリニック院長に
がん克服の食生活を学ぶー

glunch.exblog.jp
2012
9/30(日)
開場12:30
13:00~17:00
定員500名
参加費2,000円
前売1,500円

今日日本人2人に1人ががんになり、3人に1人がんで死する時代です。22年前に大腸がんが肝臓転移し、5年生存率0%と診断された星野仁彦医師は、「ゲルソン療法」に出会い、ご自身のがんを克服して以来、がん患者の治療と啓蒙に奔走されています。一方、田中康雄医師は、地元つくばで、西洋医学、中医学、アーユルヴェーダ、食養生を合わせた、全国に先駆けた画期的な統合療法を実施し、がん患者と向き合っています。両氏のお話と合せて、食事療法実践者の報告も伺い、がんの克服や予防、健康維持のための食事や日常生活をどのようにしていけばよいのかを考えます。

会場: 筑波学院大学大教室
(茨城県つくば市青葉3丁目1 029-858-4811)

13:00~13:10 開会あいさつ
13:10~14:00 田中康雄 (東海の森クリニック院長) 講演
14:00~15:20 星野仁彦 (福島学院大学福祉学部教授) 講演
15:20~15:35 ー休憩ー (会場から質問を受けます)
15:35~16:15 がん体験者報告 (10分×4名)
中塚孝子「乳がんステージⅢ一夫婦で選択した治療方針」
松井祐子「母の子宮体がんと甲状腺がんを家族で乗り越え」
佐藤麻子「再発乳がんが怖く」
矢澤谷子「乳がん2度の再発を克服」
16:15~16:55 パネルディスカッション
16:55~17:00 閉会あいさつ

各団体の活動紹介・展示・試写・相談: 12:30~17:30
ゲルソン食の試食・試飲・レシピ集&DVDの配布・食事療法相談・有機産物の紹介・健康関連DVD試写(12:30~13:00)など

チケット取扱いつくば市民活動センター029-555-1171/大成不動産(株)029-855-2311
近江屋商店029-875-3827/友成堂書店青葉本店029-852-3665/飯沼/梅田店
(株)親井建設産業&還元陶板洗剤伝説の里産物029-878-3711/花小路029-857-8845
問合せ先 tel/fax 029-867-0800、080-8560-6392 yyazawa@ce.mbn.or.jp (矢澤) /
080-4059-8383 (加藤) /090-7413-5314 (山口) /080-4662-4354 (高野) /
080-1000-1884 (川崎)
主催: つくば代替・統合療法を考える実行委員会 代表 沼尻正恒